

グループスケジューラ View with Exchange Server を、Exchange クライアントアクセスサーバが Windows NLB 構成の環境で使用する際のご注意

1. 対象製品

グループスケジューラ View with Exchange Server

2. 現象

グループスケジューラ View with Exchange Server（以下「グループスケジューラ」と記述します）で 予定表の参照元とする Exchange クライアントアクセスサーバ（以下「CAS サーバ」と記述します）が Windows NLB で構成されている環境では、CAS サーバのサーバ証明書のホスト名が NetBIOS 名でないと、グループスケジューラは Exchange サーバから情報を取得できません。

3. 原因

グループスケジューラは、Exchange から情報を取得する際に、Active Directory から Exchange の AutoDiscover の URL を取得して、その URL を使って CAS サーバとの間で SSL による通信を行います。この時、URL に含まれるサーバ名と、接続先の CAS サーバのサーバ証明書のホスト名は、一致している必要があります。

しかし、CAS サーバが NLB で構成されている環境では、Active Directory から取得できる AutoDiscover の URL は、仮想サーバ名が含まれたものとなります。

また、CAS サーバの既定の自己証明書では、ホスト名には仮想サーバ名ではなく、自ノードの NetBIOS 名が使用されています。このままでは、URL に含まれるサーバ名と、接続先の CAS サーバのサーバ証明書のホスト名が一致しません。

また、グループスケジューラでは Kerberos 認証を使用する必要がありますが、Windows NLB の仮想サーバへの接続では Kerberos 認証がサポートされていません。

【参考】 <http://support.microsoft.com/kb/873288/ja>

このような状況に対応するため、グループスケジューラでは、CAS サーバが NLB で構成されている場合は、ノードの NetBIOS 名をもとに AutoDiscover の URL を生成します。それにより、URL に含まれるサーバ名と、接続先の CAS サーバの証明書のホスト名が一致するように実装しております。

4. 対処方法

NLB の各ノードに対して発行するサーバ証明書のホスト名を、各ノードの NetBIOS 名としてくださいますようお願いいたします。

ご不明な点等ございましたら、ご購入元か弊社担当者までお問い合わせ下さい。